

日光総合会館検討専門部会会議録

件名	第二回日光総合会館検討専門部会		
日時	令和元年6月26日(水) 10:00～11:30	作成日	2019年6月28日
場所	日光消防署 2階大会議室	記録者	資産経営課 斎藤
出席者			
<日光市> 上中副市長 安西財務部長、小林資産経営課長 星公共施設マネジメント係長 資産経営課公共施設マネジメント係職員		<専門部会メンバー> (出席部会員、アドバイザー名簿別紙) (敬称略)	
議事内容			

■配布資料

第二回日光総合会館検討専門部会 資料1、別紙資料1、別紙資料2、
参考資料：他自治体提言書サンプル

■議事録

1. 開会 ～安西財務部長～

2. 部会長挨拶

「皆さんおはようございます。朝早くからおいでいただきまして、ありがとうございます。特にアドバイザーの先生方、朝6時頃お出でになったということでご苦労さまです。ありがとうございます。今日はお手元の次第にありますとおりいよいよ総合会館の具体的な方法ということを決めて行く重要なものになりますので、皆様方の忌憚のないご意見で、良いものができてくればと思いますので、本日もよろしくお願いいたします。」

3. 議事

○部会長

「それでは、部会長として議長役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
まず今日の出席状況ですが、お一人欠席の方がいまして、出席をいただいております委員の数は、「14」名で、定足数に達しておりますので議事に入りたいと思います。
議事に入る前に、本日、傍聴の申出がありましたので、これを許可したいと思います。意見はございますか。意見がないようですので、傍聴を許可するという事でよろしくお願いいたします。
それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。本日の主な議題は「(1)日光総合会館についての方向性について」、「(2)当該地の具体的事業内容の検討について」の2件ですが、前回の会議で色々課題というかが出されておりますので、まず、関連する各種データの資料1について事務局より説明願います。特に耐震性とか、ランニングコストであるとか、ホールの利用詳細とか色々あったかと思っておりますので、資料の方も用意されておりますので、説明の方をお願いいたします。」

・・・事務局より資料1の各種データの説明。

「それでは日光総合会館に関わる各種データの説明をさせていただきます。
資料1をご覧ください。
1ページ・2ページ目の文化会館の施設概要、及び3ページの図面関係につきましては、前回の会議でもお示しした資料になりますので、説明は省略させていただきます。
4ページをご覧ください。
こちらにつきましては、建物の耐震性の判断についての資料となります。
表2段目 日光総合会館につきましては、1972年建築、築後47年が経過する建物であり、耐震診断の結果、建物の耐震性能をあらわすI s値は0.65となっております。
4ページ資料中ほどの四角囲みにI S値の説明があり、一般的な建物であれば、I S値0.6以上が耐震の一つの目安になるところですが、その下の①に示すとおり、文化会館は社会教育施設として使用する官庁

施設となる公共施設であることから、I s 値0.75以上が求められることとなります。

このことから、②2行目に示すとおり、日光総合会館については、社会教育施設の判定基準I S 値0.75を下回るI S 値0.65であることから、耐震性を満たしていないという判定になっております。続きまして、5ページをご覧ください。

こちらは、日光総合会館を仮に今後20年間、維持・改修して使い続ける場合のトータルコストを示した資料となります。

20年間の総額は39億4800万円と試算しており、その内訳は、耐震補強や建物の改修費等の費用に21億9,500万円、施設を維持管理運営していくための費用、ランニングコストが17億5,000万円、年間あたり約8千700万円となります。

A 改修費(21億9500万円)の内訳として、特に耐震補強を含む改修費は直近5年間のうちで約13億1千万円と、全体の6割以上という多額の費用負担が必要となります。

また、B ランニングコストの内訳については、人件費や維持管理費など現金支出が伴うものが約2,700万円、現金支出を伴わないコストとして減価償却費を約5,900万円と試算しており、毎年度8千700万円以上のコストがかかると試算しています。

6ページをご覧ください。

こちらは単年度現金収支の状況を平成29年度決算の数字により示したものになります。

日光総合会館につきましては、敷地内西参道第2・第3駐車場並びに国道を挟んだ交番側にある第1駐車場並びにJR日光駅前駐車場を一体的に、指定管理という手法で民間が管理運営を行っております。

表中左列の日光総合会館だけの収支状況で見ますと、施設使用料等の収入が約166万円に対し、人件費、光熱水費・燃料費等を含む施設管理費等の支出が2377万円で、実質収支が約マイナス2200万円となっています。

真ん中の西参道駐車場については、収入が約6570万円に対して、支出は人件費、施設管理費の他、当該駐車場は毎年2000万円を市に納付することを条件として現在の指定管理者が協定を結んでいることから、市への2000万円の納付金を含めた約4230万円が支出となり、西参道駐車場だけの実質収支では、約2332万円が黒字の状況ですが、先程の日光総合会館の実質収支がマイナス約2200万円であることから、合計欄のとおり、西参道駐車場の黒字分で残り2つの施設の赤字分を補てんしているような状況です。

維持していくために多額の費用がかかってくる総合会館ですが、現在どのような内容で、どれくらい利用されているのかということを示しているのが、7から9ページの資料となります。

まず、7ページをご覧ください。(1)は大ホールの利用件数、利用率をあらわす表となります。平成20年度からの統計になりますが、表の一番右側の列に記載のとおり、平成20年度以降の年平均会館日数は313.2日に対して、大ホールの使用件数は137.5日で、利用率は43.9%となっています。その利用の内訳をみていきますと、

(2)は利用団体別の利用状況になりますが、一番利用している団体としては、非営利の民間団体が65.1件で、その利用内容のほとんどが、各種練習での利用となっています。次に実行委員会が23.6件、市や教育委員会が23.1件で、民間団体とともに官公庁関連の利用が主なものとなっています。

次に(3)は利用内容別の件数になりますが、件数内訳を割合で示したものが下の図1になりますが、各年度とも、各種練習の利用割合が40~50%を占めており、次に多いのが各種大会等の準備リハーサル等となっています。

なお、利用状況の詳細内容につきましては、別紙資料1に一覧になっておりますので、後程ご覧いただければと思います。

8ページをご覧ください。

(4)利用頻度別の件数になりますが、年に1回が59.3件と最も多くなっています。次に先程の(3)利用内容別でご説明したとおり、各種練習の利用が多いということから、週1回の利用が33件となっています。

次に(5)は利用者数別件数内訳になりますが、赤く囲んであります上から2段50人以下の利用件数が半数以上を占めており、下の図2で示すとおり、各年度とも50人以内の少人数で利用する割合が60~70%、更に20人以内での利用が50%以上を占めていることがわかります。

次に9ページをご覧ください。

こちらは、日光総合会館会議棟の2階にあります大会議室の利用者数別の件数になります。

大会議室は各種講演や大人数での研修会議等も利用可能な会議室ですが、平成30年度を除く年度では、20人から40人で利用する件数が40~56件と多くなっています。

こちらの会議棟の利用状況の詳細につきましても、別紙資料2に平成30年度全ての利用状況の内訳一覧を後程ご覧いただければと思います。

最後に10ページをご覧ください。

こちらは、西参道駐車場の過去5年間の利用台数と収入状況の推移となります。

平成29年度につきましては、日光東照宮の400年式年大祭等の影響により、利用台数が1万弱、収入では1千万円弱、例年よりも多い状況ですが、平均しますと、利用者数は年間11万3千台前後、収入が約5千8百万円弱という状況です。

右下のグラフについては、年度ごとの月別の利用者数の推移となります。いずれの年も12月～4月頃は利用台数が低い状況にあり、ハイシーズンとオフシーズンの利用状況に大きく差があるということが見て取れます。

11ページについては、平成29年度の利用状況詳細内訳、12ページは同じく平成30年度の利用状況詳細となっております。こちらも後程ご覧いただければと思います。

資料の説明は以上となります。」

○部会長

「今かなり詳細な過日課題となっていた点の詳細なデータが示されたのですが、委員の皆様から、ご質問とか疑問点とかがございましたらお願いいたします。」

○部会員1

「今の説明の中で、まず駐車場のキャパシティはどの位あるのか。交番側の駐車場については、一度にどの位の駐車が可能なのか。同じく第2と第3は？」

○事務局

「資料1の1ページにも記載がございますが、第2・第3駐車場につきましては、162台。第1駐車場につきましては、只今確認しております。」

○部会員1

「第2・第3の台数は了解しました。もう一点なのですが、これは市の直営ではなくて、第3セクターに運営を任せているみたいなのですが、その理由は一体何でしょうか。」

○事務局

「地方自治法に基づく指定管理者制度という仕組みを活用しまして、現在公共施設振興公社という団体に指定管理をお願いしているところでございます。この施設に限らず、指定管理を利用している施設につきましては、民間を含めたところのノウハウの活用といったところを使って、集客とか利用状況の効率性を図るとか、そういったところが一番大きな狙いということになってございます。」

○部会員1

「わかりました。ということは、市で直営したのでは、素人だから、もっと収益が減ってしまう可能性もあるという風に捉えてよろしいか。」

○事務局

「ある意味そう言われても仕方がない部分もあるかもしれませんが、積極的に考えて、市がやるよりも、もっと有効な活用方法を考えていただいて、やっていただくということになってございます。ちなみに交番側の第1駐車場の駐車台数は73台です。合わせると235台ですね。」

○部会員2

「総合会館の資料ですけど、比較するものがない、例えば文化会館はこの位とか。全国の公共施設が本当に黒字になるのか。あくまでも、総合会館というのは、市民が利用するものなので、黒字になるようなものではないと考えています。なので、比較するものがなく、単純にこれだけ赤字ですよという資料を出されても、それは他の市町村の公共施設とか、もしくは今市文化会館の利用率とか、そういうものを比較しないと、総合会館がどれだけ使われていないのかというところがよくわからないので、出来ましたらそういう資料をいただきたい。」

○事務局

「全体的な利用数につきましては、1回目の会議の際に、今市と藤原の数字は示させていただいているところですが、今市文化会館の利用率はだいたい71%、藤原総合文化会館は10%、これは、平成27年度の調査レベルですけれども、日光総合会館については、44%というのがだいたいの比較のところですよ。あと、全国的に見て黒字のところはないのではというお話もありましたけれども、確かに社会教育施設として、文化会館単体で黒字になるというのは、まずないと言う風に捉え方はしているところでございます。」

○部会員 3

「減価償却の部分なのですが、これは恐らく何年かでなくなる数字なのかなと思うのですが、建築物については、最長50年だったと思うのですが、この辺の数字はどのようなのでしょうか。」

○事務局

「減価償却費につきましては、全体的な話としての公共施設マネジメントを一番初めに始めた時に、市全体の施設を横並びで調査をかけています。それが、公共施設マネジメント白書というものになりますが、その中で統一して、構造によってこちらの施設は40年ということではじいているということです。」

○部会員 3

「そうすると、日光総合会館は築47年ということなので、これは減価償却費がゼロになるのではないかと考えたのですが。」

○事務局

「減価償却費については、年数、構造別でそれぞれ違いがあるところですが、先程の公共施設マネジメント白書の作成にあたって、建物の竣工から今あるところまで、それぞれの施設が全体としてどのくらいかかっているか比較する上で、どの施設も減価償却費を加えて比較の数字として使わせていただいている。ですから、現実的には先ほど資料1の説明でもあったとおり、実際に現金が伴うものと、現金支出が伴わない減価償却費分ということで、構成されている訳ですけれども、比較する上では、文化会館以外のそれぞれの施設含めて、竣工から今あるところまで、また解体されるまでどの位かかるのかという形の比較の上では、40年は超えていますけれども、比較の対象として、減価償却費相当分を加えているということでご理解いただければと思います。」

○部会員 4

「参考までにお聞きしたいのだが、4ページのIS値、5ページの改修費の数字はどこから算出したものか」

○事務局

「まず、4ページ建物の耐震性の判断についてのIS値については、日光総合会館については、平成25年度に建物の耐震診断を診断業者の方に診断してもらった際の結果の数字です。また5ページの改修費ですが、こちらが平成28年度に日光含め、今市・藤原の文化会館それぞれを20年間使っていくのにはどのような改修費用がかかって、どういったものを更新していけば、20年間持つのかというような調査を行っており、その時に出た数字となっております。こちらは例えば、資料中、工事費の内訳が書いてありますけれども、日光総合会館のようなホール機能を持つ施設というのは、大きな設備関係が入っておりますので、電気や空調、そういったものを更新するためにはどのくらいかかるのかというものを積算した数字となっております。こちらは、日光だけでなく、今市・藤原も同じ時期に同じ調査をして、改修費用の積算をしております。」

○部会員 4

「追加でお願いしたいのですが、今出された回答ですが、4ページのデータについては、専門業者に委託して出した数字がこの数字ですか。そうすると、現在は令和元年ですから、この数字はもっと下がっているということになるのでしょうか。また5ページの数字については、ざっくりした数字なのか、平準化した数字なのか。最低限の数字を出したもののなのか。」

○事務局

「耐震化の方のお話ですが、あれだけの造りですので、2～3年というところで、極端に数字が下がることはないですけれども、少なくともこの数字を上回っていることにはならないと思っている。当時0.65ですから、例えば0.648とかになっているとかそういうことはもしかしたらあるかもしれませんが、0.7になっているとか、そういうことにはなっていないのかなと捉えているところです。」

2点目のご質問についてですが、ざっくりというところよりは、先ほども少しご説明しましたが、この構造別工事費の項目別にございですが、例えば、建築の項目ですと、屋上、外壁でどの位の改修が必要なのかとか、設備関係ですと、その設備ごとの耐用年数、20年で更新しなくてはならないとか、10年で更新しなければならぬとか細かい耐用年数というのがありまして、実際、日光だけではなく、他の文化会館施設もそうなのですが、本来の耐用年数の更新時期のタイミングで改修や更新ができてこなかったということがあり、直近5年間のなかで上がっている改修費用というのは、実は耐用年数の期限が過ぎていて、経過していて、すぐにでもやらなくてはならないものの改修更新の項目であるので、それら細かい積

み上げがこの13億の数字になります。大まかな数字というよりは、細かく積算して出た数字ということになります。」

○部会長

「今のことに関連して、5ページの工事費のところですね、舞台のところの費用が高額になっているのは、耐用年数とかの観点を加えているから高額になっているのか。」

○事務局

「舞台については、照明機器とか、音響機器とかが、耐用年数を過ぎてしまっていて、すぐにでも交換、更新しないと、いつ使えなくなってもおかしくないという状況の中で、すぐ代える場合には総取り換えという形なので、どうしてもここが大きな費用がかかるという結果になっています。」

○部会員 1

「私の理解不足なのかもしれませんが、前回会議の際に、第1ステージ第2ステージがあって、第1ステージに関しては、日光総合会館を取り壊すという方針でいるということを理解したのですが、実際この会議については、例えば取り壊さないでくれと言ったら、取り壊さないのかどうなのか、少し日光市の方針をはっきりお聞きしたい。お答え願います。」

○事務局

「市といたしましては、今あったようにステップ1のところ、日光と藤原を廃止してということを考えているところには変わりはありません。ただ、1回目の会議の際に、日光総合会館の現状として、利用状況とか、耐震化の状況の具体的な数字を改めて示していただきたいというご要望がございました。その中で、廃止等については、この場で少し意見を確認してほしいというようなこともございましたので、改めて今回まずは改めてデータの説明をさせていただいたところです。この後、議題1のところ、改めまして、私の方から説明をさせていただきますけれども、市の方針としては、前回お話いたしました、ステップ1、ステップ2というところの、日光総合会館、藤原総合文化会館については、廃止をしたいというところのスタンスは変わっているところではございません。」

○部会長

「今やっているのは、前回会議での積み残しというか、色々課題があったものですから、その詳細なところを今検討している訳です。それで、事務局の方から色々数字が示されてきましたけれども、このデータに関して他の委員さん方から何かありますか。」

○部会員 5

「この数字自体がよくわからないので、教えていただきたいのだが、平成28年から32年、今平成31年にあたる年だと思うのだが、この間に改修もしくは、手を入れたものがあるのであれば、この費用から抜けていくと思うのですが、実際本当に必要な費用というのが、今現在よくわかっていないのではというのが、意見としてあります。あと、ランニングコストについてなのですが、6ページの方ですね、こちらを見ると、実際指定管理者が支払っているものと日光市が支払っているものが、ごちゃ混ぜになっていると思うのです。実際日光市が負担している費用がどれで、指定管理者が負担しているのがどれなのか、全くわからないので、これはコストと言えるのでしょうかというところです。」

まずは、この総合会館の改修について、行っているもの等の精査をしてもらいたいということ、実際この22億円近くのお金がかかると思うのですが、これは平成28年度の試算なので、建設業をやっているものからしたら、この1.5倍位のお金がかかってくると思うのです。人件費も、資材自体もあがっていますし、そうなると思うとこの試算自体があまり通用しないのではないかと思います。あと、一点、私の個人的な若者としての意見なのですが、この日光総合会館というのは、収入を得られる日光市の施設の中では、随一の収入を得ているのではないかと考えていて、立地等考えても、ハコモノをなくしてしまっ、駐車場だけにするという考え方はよろしくないのかなと思っています。この大ホールにかかる設備とか更新に大きな費用がかかるのであれば、大ホールを解体して、会議室棟を残していく方が良いのではないかとこの風に考えているところです。」

○事務局

「まず1点目のH28から32に実際に工事をやっていけば、この費用から差し引かれるのではないかと、また、平成28年度の試算なので、実際やろうとすると、これよりも費用がかかるのではないかと等のお話がありましたけれども、平成28年度以降手をつけていない状況です。改修工事は実施しておりません。確かに現実にはこの金額で本当に20年間持たせることができるかということ、今部会員さんのお話にありまし

たとおり、躯体も28年度以降に比べて劣化してきますし、時代の流れで人件費等々上がっていることでもありますので、20年間持たせようとする、多分、到底この金額では収まらない。いわゆる、下限レベルがこの金額になってしまうのかとは思いますが。

それと、先ほどの指定管理と市の収支がごちゃ混ぜになってしまっているのではないかという6ページのところですが、こちらにつきましては、すべて指定管理の数字になります。市の方で支出しているものもございませんし、収入はあくまでも、指定管理者の収入になって、その指定管理者が施設を管理運営するために必要な支出がここに書いてあるということです。西参道の駐車場につきましては、指定管理の契約をする際、指定管理者である振興公社が市の施設を使って業務を行う上で、当然儲けが出る訳ですので、その際2,000万円は市へ納付金として納めるという条件のもと、契約をしているという形になりますので、6ページの数字は全て指定管理の方の収入、支出ということになってございます。3点目につきましては、先ほど部会長から話があったとおりです。

○部会員 6

「先程の話に戻ってしまうかもしれないのですが、5ページ目の総合会館改修費なのですが、これは、大ホールと会議棟と両方合わせたの数字であるのかという確認と、先ほども質問であったのですが、具体的にこの工事費項目の中で、建築というのはだいたいわかるのですが、電気と空調と衛生と舞台とあるのですが、わかりやすく言うとこの部分だよというのをご説明願いたい。それと、これだけの資料を短い間に示して頂いてありがとうございます。」

○事務局

「1点目のホール部分と会議棟の方を含んだ数字なのかということで、一体の施設となっておりますので、両方含んだ積み上げのものとなっております。工事項目の詳しい中身については、建築については、屋上、外壁等の建物の物理的な躯体に係るものとか、内部床、壁とか、天井も入っている。電気については、受変電設備や電気系の設備関係、あと防災設備等も電気の項目のものに入っております。空調ですが、通常の暖房、エアコン、換気、ダクト、配管系を含んだものとなっております。衛星については、給水排水、衛星設備関係が項目として入っております。舞台につきましては、先ほど部会長からの質問でもありましたが、照明や音響、観客席なども入っています。」

○部会員 7

「一点確認したいのだが、日光の総合会館と駐車場は指定管理者が運営しているということはわかったのですが、今市、藤原はどうなのか」

○事務局

「今市についても振興公社の方が指定管理者となっております。藤原については、以前は指定管理でしたが、現在は直営です。」

○部会員 7

「3つの施設のなかで、日光は収益がありますよね。6,500万円の駐車場の収入がありますよね。今市、藤原ではどの位の収支状況なのでしょうか。」

○事務局

「今手元に具体的な数字がないのですが、会館以外、駐車場として有料で貸し出ししているのは、日光だけです。3館並べて駐車場まで込みで赤字か黒字かという話になれば、黒字というか、だいたい収支がとれているのは日光だけということですかね。会館だけで見れば、全て3施設は先ほどご質問ありましたとおり、黒字の施設になるというのは、難しい状況だと思います。」

○部会員 7

「日光の方は市への納付金2,000万円が入りますよね。今市、藤原はそういうたぐいのものはないですよね。」

○事務局

「はい、ございません」

○部会員 8

「前回の会議の時にご説明をいただいたかどうかわからない部分で確認をさせてもらいたいのですが、3施設の中で、今市文化会館だけが、耐震工事を済ませているというのは、やはり、今市文化会館を再優先さ

せて先に工事を済ませたのかというのが一点と、先ほどステップ1、ステップ2の説明をいただいたのですが、壊すことが決定なのかということをもう一度確認をさせていただきたい。」

○事務局

「まず、今市文化会館の耐震化につきましては、耐震化したこと自体が相当前でして、今回の話のはるか前に耐震化をしている状況です。正確な年度はわからなくて恐縮ですが、今市の時代、合併前に耐震化をしている状況でございます。

2点目につきましては、先ほども少しお話がございましたけれども、市の方針としてはステップ1で日光と藤原を廃止して、前回の会議の最後にもお話させていただきましたが、こちらの日光の施設につきましては、自治会長と日光地域の議員さんからも連名で要望をいただいているところでして、そこが廃止になった後に、多層階の駐車場と、小規模のホールを造って欲しいという要望書が出されたということで、前回資料も配布させていただいたかと思いますが、それに対しまして、市の方も全体的な話として前向きに検討する旨回答をさせていただいているというところですので、市の方針としましては、ステップ1のところ日光、藤原を廃止をして、ステップ2のところ全体的な会館の在り方、今市文化会館の在り方も含めた検討をしていくというようなところで方針を定めているということになってございます。」

○部会長

「他の委員さん方からありますか。

特に委員の方からは質問等他にないようなので、アドバイザーの先生方からありますか」

○山本アドバイザー

「旧耐震建物というのは、昭和56年以前を旧耐震建物というのですが、その前の昭和45年に構造上の大きな改正がありまして、その時と昭和45年時点では、梁とか柱の帯筋とかの幅がかなり広がったとか、コンクリートの強度がかなり低かったり、専門用語で接手とか定着とかそういったものがかなり変化しているものですから、日光はその辺がわからないのですが、昭和47年竣工ということは、もしかすると、45年当時の設計でなされたとなると、その大きな改正のもので建てられていけばなのですが、それでも、昭和56年以前のもので、古いのですが、その辺が危惧されるということです。それから、もう一点は、利用状況なんですけど、100%で皆さん図示されるんですけど、実際には、8ページのところを見ると、利用件数が平成27年度175件、147件、138件、126件とだんだん減ってきているので、これは100%ではなくて、その全体の件数合わせて、その中で308日とかの開館日数に応じてどれくらい利用されているかというのをしないと、現実がなかなか見えづらくなるのではないかという気がするんです。そこは、事務局の方でわかりやすくした方が良いと思います。」

○西尾アドバイザー

「利用状況は私も気になったところで、特に直近の平成27年以降が、ずっと一貫して減少してきているという風に見えますので、そういった傾向がどうなっているのかということも、見ておいた方が良さかなという気がします。もう一点はコストの話で、部会員さんから指摘ありましたけれども、確かに建築のコストって上がっているのですね。私も他の自治体で試算をやり直したという自治体がありまして、見ましたけれども、やはり、資材も人件費も上がっているということで、事務局からも説明ありましたが、これは、最低限のラインというか、実際は1.何倍、1.5倍まではもしかしたらいらないかもしれないけれども、かなりかかってきているという前提で見て行く必要がある数字だと思います。」

○部会長

「ありがとうございます。それでは、議事の(1)の日光総合会館の方向性についてということで、もう何回か出てきているのですが、改めて事務局より、方向性につきまして、説明をお願いいたします。」

(1) 日光総合会館の方向性について

・・・事務局より以下のとおり説明。

「それでは、日光総合会館の方向性について、ご説明いたします。

第1回目の会議のときにもお話しいたしましたが、そもそも、日光市の人口、財政規模から考えて

1,000人規模の会館を3館維持していくことが困難であるとの考えから、文化会館3施設につきましては、2段階で調整することとし、そのステップ1で、日光総合会館と藤原総合文化会館を廃止することとしたものです。

その経過といたしましては、ただいま、日光総合会館に関する各種データを説明させていただいたとおり、まず、昭和47年に建築して以降、46年が経過し、維持していくためには大規模改修に加え、多額のラ

ンニングコストが必要になること、さらに、耐震化されておらず、I s 値が0.65で、社会教育施設に必要な0.75を満たしていないため、耐震化が必要になること
また、利用状況をもても、年間140件程度で、その大半が50人から100人以下の練習やりハーサルに利用されており、利用率が44%程度にとどまっております。
そのため、先にお話しいたしましたように、ステップ1として日光総合会館を廃止することとしたものです。私からの説明は以上になります。よろしくお願いいたします。」

○部会長

「ありがとうございます。諸々色々な要因によりまして、市としては日光の総合会館は廃止の方向にしたいということでございますけれども、委員さん方の中から何かご意見等ございましたらお願い致します。」

○部会員3

「私も代表で出てきていて、団体に戻って説明しなくてはならないので、再度お聞きしますけれども、何で廃止するかというと、当然日光市に金がなくて、我々の懐も厳しくなる、あるいは将来の皆さんの負担にならないようにということでの決定だと思うのですが、要は金をかけずに運営出来たら良いということだと思うのですが、以前、議員さん達から出た書類で、もう一度建てるという話も出ているじゃないですか。それに関して壊すのにいくらかかって、建てるのにいくらかかるのか、あるいは改修して使い続けるといくらなのかということ、舞台なんかやらなくて良いと思うので、ハコモノとして維持するのにいくらかかるのかということ、後、使用の用途として、文化会館としてではなくて、観光客へのウエルカムセンターみたいな利用の方針を転換して、あの建物を使った方が良いのか、あるいは建てなおした方が良いとか細かいところの試算なんかもしていると思うのですが。その辺も少しお聞きしたいと思います。」

○部会長

「今の部会員3のご意見は、これから(2)の議題の具体的事業内容というところでやっていかなければならないところだと思います。まずは今あるものをどうするのかということ、市としては今あるものは廃止をしたいということですので、その件だけに関して委員さんの中からお願いしたいと思います。」

○部会員9

「文化協会の一員として出席をさせていただいておりますけれども、我々文化協会の立場から言うと、まず、舞台も必要、また絵画の部門は、これは壁がなくては発表できません。それから、お茶をやっている人、その他色々文化協会関係の人達の行っていることがあるのですが、この会館がなくなってしまうと、それ全てを今市の文化会館の方に行くという事になりますと、特にお茶等なさっている方はお年寄りが非常に多いです。これは、足の問題も出て参ります。それから今市の文化会館見ましても、われわれが展示するような壁がないのですね。ギャラリーとして造られている部分が一切ないのです。ですから、現在の日光総合会館もそういう施設がありませんので、残念ながら、私達は今市の杉並木ギャラリーを利用しているのですが、そこに集まるだけでも、距離的に大変なこともあります。ですから、現在の日光総合会館の解体、廃止というのは賛成できない。むしろ、小さくても良いから舞台があり、音楽の発表、ダンスの発表ができるということが出来る施設に生まれて、大きな壁面を造ってもらって、小さな部屋が欲しければ、その壁面後ろ側に壁を入れれば良いわけですから、そんな風に工夫して、全ての文化的なことをなされる人達のためになればという考えを持っているのですが。壊されてしまうということが、非常に残念で、これからどうしたら良いのかと思っております。」

○部会長

「今の部会員9さんのお話しはこの後のものに関わってくるかなと思うんですね。まず、今色々出ていましたデータ等、あるいは、各委員さんからの質問等でだいたいのことはわかってきたのかなと思うのですが、市の方としては、あの施設をまずは廃止をして、その後どうなるというところは、これから検討していかなくてはならないのですけれども、これからのことは、本日の議題の(2)の具体的なものになってくるかなと思うのですが、前提としての日光の総合会館を廃止するというので、後他にご意見がありましたら。」

○部会員10

「議事の進行で改めて確認ですが、議事の(1)に入っているということですのでよろしいですね。それでは、今回詳細資料を出していただきまして、各種データが提示されまして、会館の使い方、人数、大ホールの使い方関係も詳細に出していただきまして、つぶさに検討してみたところ、実態が見えてきたという風に感じております。検討にあたっては、何でこんなことをしなくてはならないのかということ、これを原点に立ち返って、今後何が、よりベターなのか念頭において検討すべきではないかなと考えており

ます。例えば、今ではなくて、現在ももちろん必要なのですけれども、10年後、20年後を見据えて、その時に日光がどうなっているかということ想像して、人口動静なんかもございます。私達は10年、20年後にはこの世にいないかもしれません。孫とか子供世代になってきます。そういった孫や子供の世代にどういうものを残していくかということ念頭において、我々は検討していかなければならないと思っております。資金には限られたものがありますので、と言っても、日光は江戸時代から江戸の文化が即日光の文化というような形で、文化がちょっと違った発展をしてきた傾向がありますので、そのためにはどんなものを残していかなければいけないのかとかそういうものは念頭においていかなければならないと私は考えております。総合会館については、市内でもモデルケースとして、プロジェクトチームで第1ステップ、第2ステップという形で廃止の方向、議会の方にも、廃止の方向ということで、進んでいる状況だと思っております。最終的には、一番新しい報道ですと、6月7日の下野新聞県北版で、市議会の総務水道常任委員会で、日光の文化会館の統廃合という形で新聞報道されています。今までなのですが、最初に廃止という形の言葉が出てくると、非常にインパクトが強かった。廃止ということは、何もなくなってしまうのかと、私も辞書を調べて見ました。廃止というのは、状来の制度とか慣習等をやめて、行わなくすること、これが廃止なんですね。統廃合というのは、統合と廃止によって、一つにまとめることが統廃合なんです、言葉的には。そうすると、廃止というと、全くなくなってしまうというイメージの方が強いと私は感じています。今後については、廃止という言葉ではなくて、統廃合。要はどこに持っていかはわからないけど、統廃合だよという形の言葉づかいの方がより適正かなと考えております。これからの具体的な検討にあたりまして、そんなことを念頭において検討していきたいと思っております。」

○部会長

「それでは、今お手元の次第の議事の(1)、先程市の方から日光総合会館についての方向性ということで、廃止という言葉については、今ご意見もありましたけれども、現状のあそこにある建物は使わない、そういうことになるかと思うんですけれども、あと何かございましたら。

よろしいですか。それでは、当該専門部会といたしましては、現在ある日光総合会館の施設は、使わない、取りやめるというか、そういう方向で一致をしたということになるかと思っております。」

○部会員 6

「今の議長の皆さんからの意見を聞いたということで、統廃合というか、施設を廃止して今の施設は壊すということで決まりということですか。

私は、この後の具体的な事業内容検討について、もう少しその辺の話を踏まえて、今のものを無くすのか、新しいものを建てるのか、駐車場だけにするのかという議論になるのかと思っていたので、すみません。私はこの段階で、この資料みる限りでは、先程も話が出ていたのですが、新しく建屋を建てる場合にはどの位かかるのかとか、今ある施設を壊すのにいくらかかるのかというのが全然出てないなかで、私は今日ある資料のなかで、今あるものを出来るだけコストを安く抑えて、今日の資料でも20年なんですけど、20年を持たせる方向で何か出来ないかというのが私の個人的な意見です。壊すという意見には私個人的には反対ですけれども。

○部会長

「色々な考え方、先程これを建てた時に日光の人口は何万人だったのかと言うと、3万人だった、現状はどうなんだという、色々なことを考えて、あれを維持するのかというところIS値の問題とか色々ございました。それを考えると、総合的には、これはなかなか維持出来ないというところで、利用をやめるということになるかと思っております。では、その後どうするのかというところが、これから大変な問題になってくるのかと思うんですね、そのなかでどう考えるのかと。あれを取り壊す費用とかという費用は今まで出ていないんですけれども。それは結構かかるかもしれないですね、でも新しいものにしていくのか、取り壊してそのままなのかということは、これからの議論になると思うんですね。ですから、その議論のなかで、先程の部会員から話があった、色々な機能がないとどうしようもないだろうということがあるかもしれませんし、それは、これからつめていかなければならない。」

○部会員 2

「新しいものを検討した時に、この20年間の維持費の金額より大幅にこの3倍位かかってしまうと、そういう場合にまた戻るということは出来ないですね。ここで廃止と決めてしまうと、で、新しいものでよく聞くのは、もっと小規模なものを市民が使えるものという話を良く聞くのですけれども、そのある程度の概算の金額というのが決まると、現状のものの費用の倍以上かかってしまった場合に、負の遺産というか、この金額は未来の子供達とかにかかってくるので、ここで単純に廃止と決めるのかということなんですけれども。新しく希望したものが、本当に具体化して、ある程度の金額に収まって出来

るのかというのが、心配な訳です。実際に新しいもの造ったら、壊すお金も合わせて、この3倍もかかってしまうという場合に、どうなのかなというのがるので、そこら辺の検討を進めてからもう一度金額の比較みたいなものが出来ればいいのではないかと思いますのですが、それはいかがでしょうか。」

○事務局

「確かに色々お話が出ていますように、日光の総合会館しか日光にないということであれば、出ているお話しのとおりじゃあ、壊すのにいくらかかるのかとか、今後の使い方と比較した時にどうなのとか、建替えの仕方によって、例えば、今の利用形態を見据えた建替え方をした時にどれ位かかるのかというような比較ということに終始するのもかもしれませんけれども、そもそも論の話といたしまして、まず、日光市で、日光・今市・藤原の3館全部を維持していくのには、相当難しいというのは、そもそも論としてございます。これは私の方でもお話しを差し上げたところです。そのなかで、改修の費用とか耐震化ですとか、利用状況等を総合的に勘案して、まずはステップ1として日光・藤原について利用するのをやめる、廃止をするということ。更には、新しい会館、後は耐震化している今市の文化会館、その辺につきましては、ステップ2のところでも少し方向性を別途検討しながら、出していくと。ただ新しい会館につきましても、じゃあ今市のところのままに建てるのか、新しい場所に造るのか、そこは全く白紙のところでございますので、その部分については、別途協議をしていく必要があるのかなとかんがえてございます。

今の日光総合会館の場所につきましては、耐震化もしていない、大規模な改修も必要になる、利用状況も少ないという状況のなかでは、市としては、そこを解体して、違った利用形態を少し考えた方が良くはないかというようなところになってございます。

例えばこれから先の議論として、今お話しが出ましたとおり、廃止ということが今決定ということではなくて、廃止ということになった場合、どういった利用形態ができるかということを一度皆さん、今回、一件目の議題で相当時間がかかっておりますので、二件目の議題が今日は途中になってしまうかもしれませんが、3回目にまた続きをやればいだけのことですので、仮に廃止というようになった場合というような前提で皆さまの方は話を進めていただいても結構ですし、その上で比較をしたいということであれば、どこまで比較できる資料が出せるかと言うのは正直難しいところではございますけれども、そういった前提で話を進めていただいて改めてその話をするということでも場合によってはよろしいかなと思います。

○財務部長

「補足と言いますか、そもそも説明が足りなかった部分があると思うので、申し訳ないのですが、今回この専門部会というのは、日光総合会館の市の方針で、日光総合会館を無くすということで前提に考えさせていただいた。その時にその跡地の利用をどうするという、そこが今回専門部会のメインのテーマなんだろうと思っております。その前になんであの施設を無くすという判断を市の方が決めたかということで、こういう状況なので、こういう現状を考えると、維持していくことが難しいというか、出来ないに等しいので、それなので、耐震性の低い、それと利用状況の低い日光と藤原は廃止させていただいて、とりあえずは今市を使うという事で、方針を固めた。その状況をお示ししたのが、今の現状です。これは、大元に戻ると、ステップ1、ステップ2と言っていた、まず3館は維持できないので、日光と藤原をやめさせてもらうという第1段階、第2段階は、それと同時に日光市としての文化会館をどうするかということも考えていかなければならない。その方針を固めるのが第2段階ですということで分けさせていただいているので、ここは今第1段階のステップ1の段階のお話しをさせていただくという認識だったので、本来であれば、今市、藤原全部含めた、日光市として、文化会館どうするのだという話が一方でそれが無いと、話がしにくい部分というのがあったんですけども、先程来ていた、文化行政、文化事業として、文化会館にこういう機能が必要だと言う話は、このステップ2の方のなかで、じゃあ日光市として今後新しいものが造れるかどうかということもあるんですが、どういう方向でいくかということはステップ2の方で話を進めて行くと言う風に考えている。

ここで、全体の話はどうのという話になってしまうと、今の日光総合会館をこういう形で残すとか何とかという、少しそこは個別に話が進むとなかなかまとまらないという部分もあるので、現状で3つを維持できない、その中では、何度も同じ話で恐縮ですが、色々な状況を勘案して、あのまま使い続けることはできないと思っていますので、一旦、あそこは無くさせてもらう。それと同時に新しい市としての文化会館の対応を検討していくことにしておりますので、そのなかで先程来ていたことと言うのは、話し合っていくのかなと、行政側としてはそういった整理をさせていただいているのですが、その辺のところをきちんとお示ししていなかったもので、議論が拡散した感があるので、事務局側としてはそのような考えでいるということです。」

○部会員 3

「今のお話しですが、3館維持するのが無理だ、1館しか残さないということですけども、どんな小さな

ものを造るのにも3館は無理だということになると、小さな文化会館的なものは、最初から出来ませんよと言っているような気がします。前回はそんなですけれども、市民達の要望というのは、小規模でも良いから何か残してくれという事があるので、もし最初に1館しか残しません。そういう施設は造りません、維持できませんということであれば、議論する余地がないのではないかと。

○事務局

「3館維持出来ないというのは、今の3館をそのまま維持出来ないという意味です。ですので、今の日光総合会館の建屋がなくなった後に、どういう風にしましょうかというのは、例えば、小さなものでもという話であれば、また話は変わってくるということです。」

○部会員3

「そういうことであれば、了解しました。」

○部会長

「これはなかなか、市の文化行政と言いますか、あるいは文化会館の全体像とかその辺は我々わからない訳ですね。全体と個別の問題がある訳ですけれども、全体はまだ出てこない訳ですけれども、まあある程度のもものはあるのかもしれませんが、個別の日光総合会館について、この我々の専門部会で議論を進めたいんです。」

○部会員10

「日光の個別ということになりますけれども、これは全体的なものがある程度見えてこない、論議できないことがあると思うんです。実は日光と藤原の今の現況を無くすというと、例えば、今市の方に集中させるということ、今市文化会館の現況設備を改修して使うのか、また、新たな所に土地を求めて造るのか、これによってまた日光の生きて行く道が違ってしまふ。というのは、今市にも建替えるとなつて、現況の土地で壊した時、その間ホール機能はどうするかとなると、いつやるのかということになると、その間何も無い、3館全てないということになると、一番耐震のIS値が高い日光を取りあえず残しておかなくては行けないということが出てくるのではないかと。ですからその辺の全体的なところも見えない。ですからある程度そこが見えてこない、将来的にはそうするよということにはなるんでしょうけど、いつ頃というのが、そこで人口動勢も変わってくるし、人口の形態も、年齢構成も変わってくると思います。それによっては、建物を建てるのですから、すぐに5年10年でつぶすわけにはいかないの、そこもやっぱり考えなくては行けないのかなと思いますので、ある程度の全体的なことが見えてこないといけないのかなと思います。また、今市に全部集中してしまうと、今度は3つ集中するということになると、100%を超えてしまうのではないかとということになると、日光のものも今市のものも他の施設にふらなくてはならない。そうすると、どこにその行事を振り分けていくかということになると、じゃあ公共施設のなかで、余った学校(統廃合した学校)に持っていくのかとそういう問題にまで波及していくと、非常に話が大きくなってしまふんですけれども、そこまでやれとは言いませんけれども、方向性だけ、日光はそういうことも含めてどうするという形で決めて行かなくては行けないのかなと思います。」

○部会長

「全てが明らかではないんです。ある程度の決定的なものは伴わざるを得ないのですけれども、我々としては、その議題にありますように、日光の総合会館の方向性として、一応は現状はやめるという方向性を確認できればと思うんです。では、その後我々、例えば、個別日光地域としては、その跡地をどうするということが具体的に出てくるかなと。それは多分、市としては全体的な文化会館の話については、他の地域も集めて、総合的なものを何かやらざるを得ないと思うのです。全部廃止して何もなくなってしまうということでは困りますので。そこら辺は我々としては、我々の守備範囲ではないので、まず、我々としてはそういった少し曖昧な点はあるんですけれども、現状として確認をして、議論を先に進めたいと思うんですけれども。その辺までどうでしょうか。大丈夫でしょうか。それでは、議事の(1)の日光総合会館についての方向性ということで、現状の施設についてはやめるという方向性を確認したということになるかと思ひます。」

それで、用意している次の(2)の具体的なところに行きたいと思うんですけれども、時間が予定の時間に迫ってしまっていますけれども、(2)の具体的なところはこれからですかね。そのところの市の方の考えを事務局の方から説明いただきたいと思ひます。」

○事務局

「一つ目の議題で色々ご意見をいただきまして、確かに時間が少し厳しいかなと思っております。それで、2点目の具体的事業内容の検討につきましては、今、委員さんのお手元に資料として配布させていただい

たところもございますけれども、まず、大元といたしましては、1回目の会議でもお話しさせていただきましたとおり、自治会長会、更には地元選出の市議会議員の皆様から、あそこがなくなった後には、多層階の駐車場と小規模のホール機能を設置してほしいという要望がまず出ているというところは論点としてあるかと思えます。ですので、論点の一つ目は、駐車場についてどう考えますかというのが一つ、2つ目は小規模ホールの機能等についてどう考えますかということになるかと思えます。それ以外にも、色々な視点から色々なご意見が皆さまの中であろうかと思っているところでございます。話があちこちから出てしまうと、論点がぼけてしまうということもございますので、ポイントポイントで、一つ一つ絞ってご意見をいただいていた方が良いのかなということで、今の4点、その他の意見も含めて5点のポイントを絞った資料を配布させていただきました。ただ、今日もう時間がありませんので。」

○部会長

「今事務局の方からですね、説明がありましたように、議事の(2)は、具体的には今お配りしましたところですけども、これをやり始めるといくら時間があっても足りないので、これは、次回に回したいと思うのですけれども。各委員さんが、今の事務局の話聞いて、例えば自分としては、駐車場についてはこう考えるとか、ポイントごとにお考えいただいて、次回具体的なものに入りたいということで、会議の方を締めたいと思うのですが。これから全部やるとなると時間が足りないですので。委員さん方そのようなことでよろしいでしょうか。」

○部会員3

「お願いがありまして、今回、次の具体的な事業内容を考えるにあたって、次の部会の時に行政が考えるタイムスケジュールというものをもう少し明確に我々に教えていただきたい。解体でどの位の期間がかかって、例えば小規模ホールを造るのには、何年以内に造りますと言うような目標をたてていかないと、地域の方は多分納得できないと思うんですね。そこが、いつまでに解体して、いつまでに造りますと言うような目標じゃないですけど、そこが見えてこないとその辺の感じが進まないと思うのですが。」

○事務局

「どういったものを造るのかにもよってもスケジュールは大きく変わってきってしまうと思うのですが、あとやり方の問題、直営なのか、公民連携でやるのということも含めると、あまり精緻なものではなく、出せるとしても相当ざっくりと言いますか、大まかなもの、目安とかそういったものになってしまうかもしれませんが、少し検討はさせていただきたいと思えます。」

○部会員2

「駐車場をつくるとしても、観光地の中にどんどん車を入れてしまうのか、あるいは、他の自治体で成功している例もあるように車をある程度規制して歩かせるのか、日光総合会館のところは、施設廃止するだけではなくて、儲けていかななくてはならないと思うので、両輪をつくらなくてはいけないと思うので、その儲ける方法というのは、ある程度市とか、地元もそうなんですけど、方向性決めてやっていかないと、このままだと決まっていけないと思うので、全体的に日光市がどう考えているのかということもお示しいただけると良いなと思っています。」

○部会長

「その問題は、ずっと日光地域では抱える問題で、この間の市長の懇話会でも話題に出たのですが、事務局で、その辺どうですか。」

○事務局

「あその跡地について、良く言葉として出るのが一等地というところですので、そこの一等地を使って、何が出来るのか、ということ逆を皆様にご意見いただきたいというのがポイントです。ですので、そのために今回お配りした資料は、私どもの方からは、駐車場、小規模ホール、渋滞対策、地域活性化賑わいというポイントを4つ示させていただいておりますが、それだけに留まらないのだと思いますので、その他と5つについて、それぞれ、次回もしくは、議論によっては、次回以降ということになるかもしれませんが、ご議論いただければと思います。むしろ、私達の方が皆さまにご意見をお伺いしたいと考えております。」

○部会員11

「一つ確認をしたいのですが、具体的な事業内容の検討はわかるのですが、先立つものをどの位お考えになっているのか。財政が厳しいと言っている中で、予算がないと言っているなかで、新しいものをどの程度の額で造れるのか。費用の目安が分からないと、大きいものは造れない、小さいものでも1億2億はかか

るのでしょうし。その辺の具体的な数字を出せるのであれば出してもらいたい。」

○事務局

「確かに仰るとおりの部分はあるかと思いますが。では、市として例えば3億出せます、10億出せますということではないですし、市としては財政的に厳しい状況にかわりはございませんので、出来れば、民間にお金を出して造ってもらうという公民連携という手法も考えられなくはないのかなど。それが全てではございませんので、例えば収益のあがる施設ということもあれば、造り方を考えなければならぬということも当然ございますし、いくら出せる、予算としていくら確保できるということは、さすがにここで名言することは難しいと思っております。まず、確かにどういった規模のものを考えるのかというところで、お金の目安は必要だろうということにはなるかと思えますけれども、皆様から色んな意見が出たものを、ある程度整理した上で、例えば前回やっております、民間に事業の実現可能性があるのかどうかという確認をするサウンディング型市場調査というものを2回目の調査をかけることも可能かと思っておりますし、まずは、皆様がどういったことを考えていらっしゃるのかというところを意見として、次回お話を伺いできれば良いかなと思っておりますのでございます。なかなか具体的な数字とかお示しするのが難しいものですから、この辺でご理解いただければと思います。」

○部会長

「アドバイザーの先生方からあればお願いいたします。」

○山本アドバイザー

「やはり財政の部分はかなり響いてくるので、その辺は最終的に皆さま方で議論された方が良いと思うんですけども、あと、一つ一つのポイントだけをあたっていくと、そこだけに留まってしまうので、全体感を見ていただきたいなと思います。その辺は市の考え方もあるかと思えますので、その辺は今後調整しながらやっていただきたいと思います。」

○西尾アドバイザー

「なかなか歯切れが悪いところがあるかなという感じはあるんですけども、はっきり前提条件が決まれば議論がしやすいと思うのですが、これはどうやっていくかということは、かなり慎重に市として決めて行かなければならないことだと思いますので、今なかなか決まっていなことが多くなかで、検討を進めていくという、どうしても難しい状況があるのかなと感じています。

もちろん、建物とかハードとして、どうやっていくかということは決めていかなければいけない重要な課題ですけども、この公共施設マネジメントの一つの考え方として、ハードとソフトを分けて考えるという考え方があります。ソフトとしてあるいは、サービスとして、どういったものを実現したいかということをもまず考える。それを実現するために一番最適な建物のあり方を考えるということです。建物ありきで考えると、今ある建物全て維持していくという話になってしまいますので、一旦建物のことを横に置いておいて、今ここに掲げられているような、サービスとか機能をどうしていったら良いのかということをもまず考えてみるというそういうステップで進んでいるのかなと思いますので、一旦このサービス機能として、どういったことを日光で実現したいのかということも議論した上で、じゃあそれをハードとしてどうしていくか、あるいは手法として、公民連携という話もありましたけれども、色んな工夫をすれば、コストを抑えながら、このサービス、機能、実現したいものを達成できる可能性が広がっていくと思いますので、それをまた改めて検討していくという今後出来るのではないかと思います。」

○部会長

「ありがとうございました。それでは、今日用意されました、次第の中では、(1)の議題をやりまして、(2)は次回に回すという事で行いたいと思います。」

○事務局

「先程の論点のポイントで何点かお示しさせていただいておりますけれども、ここで、お諮りしたいと言いますか、例えば、こちらでポイントとして一旦示させていただきましたので、例えば日にちを決めまして、事前に事務局に出していただくと、ある程度まとめた形で、次回議論がしやすくなるのかなと思ったのですが、どうでしょうか。次回それはそれとしても、この場で一つ一つやっていきましようかという話にした方が良いでしょうか。」

○部会長

「どうでしょうか、次回議論を早く進めるためには、皆さんから最初にアイデアを集めた方が良いとは思いますが、どうでしょうか。例えば、2週間位空けて回答をもらうとか。」

○事務局

「事務局といたしましては、丁寧な議論が出来れば良いかなと言う風には考えているところですが、そうは言いつつもある程度効率的な議論を進めるためには、同じような意見はまとめて、皆さんで一つ一つ揉んでいった方が早いかなという思いもありますので。その辺進め方としてどうでしょうか。」

○部会長

「今ですね、事務局から提案がありました、まずは、先程配布したポイントについて、各委員さん方の色々な考え方があるかと思えますけれど、それを書いて市の方に事前に送ると。で、市の方はそれをまとめて、ある程度深めて、それを元にして次回の議論を始めるということで、よろしいでしょうか。」

・・・部会員了解の声

○事務局

「具体的な話として、会議の1週間前にだいたい毎回資料を送らせていただいていると思うんですけども、そこに市への返信用の封筒を同封しておきます。ですので、1週間あればうちの方でまとめますので、その返信用の封筒に本日お渡しした紙、仮に別紙になってしまっても結構ですので、提出をしていただければ、事務局の方でまとめて、次回の会議の際にはお示し出来るかなと思います。」

○部会長

「そういうことで、各委員さん方少し大変になりますが、よろしく願いいたします。それでは、議長の方は事務局に戻したいと思います。」

○事務局

「ありがとうございました。事務局より連絡事項・・・次回の会議開催日程（7月29日（月）午前10時から 会場日光行政センター）の連絡」
では、以上を持ちまして第二回日光総合会館検討専門部会を終了させていただきます。」

以上